

1 単元名 武士による全国支配の完成

2 単元の目標

- ・江戸幕府の成立と大名統制，身分制，鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に，幕府と藩による支配が確立したことを理解する。（知識及び技能）
- ・対外政策のもつ二面性や国内への影響などに着目して，江戸幕府がグローバル化にどのように対応しようとしたのか，多面的・多角的に考察し，表現する。（思考力・判断力・表現力等）
- ・江戸幕府のグローバル化への対応について，現代社会の課題の解決を視野に主体的に関わろうとする。（学びに向かう力，人間性等）

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
江戸幕府の成立と大名統制，身分制，鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に，幕府と藩による支配が確立したことを理解している。	対外政策のもつ二面性や国内への影響などに着目して，江戸幕府がグローバル化にどのように対応しようとしたのか，多面的・多角的に考察し，表現している。	江戸幕府のグローバル化への対応について，現代社会の課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。

4 学習の基盤

(1) 教材について

今回のコロナ危機は，近年におけるグローバル化の格段の進展を反映して，圧倒的な速さで世界に広がった。日本政府は自国への影響を考慮し，日本へ入国・帰国する際の行動制限を含めた水際対策を行い，感染拡大の未然防止に努めた。一方で，このような対応は様々な混乱を招くこととなり，今後グローバル化にどのように対応し国際関係を築いていくかは我が国のみならず，世界全体の課題といえる。

世界の歴史を遡ると，「大航海時代」と言われる15世紀末の世界では，すでにグローバル化の動きが見られた。コロンブスのアメリカ大陸到達により，トウモロコシ，ジャガイモ，トマトやタバコのほかに，梅毒をヨーロッパ人が持ち帰り，逆にアメリカ大陸の先住民にはヨーロッパから小麦，サトウキビ，鉄器や馬と並んで，天然痘やインフルエンザなどがもたらされ，のちの歴史に大きな影響を与えた。特に，伝染病は多くの先住民の命を奪い去り，人口の急減をもたらしした。先住民の減少による労働力不足を補うために，アフリカから奴隷が大量に送り込まれるようになるなど，世界の一体化をもたらしした「コロンブスの交換」は，まさにグローバル化の動きといえる。

同時代の日本は，中世から近世への過渡期であり，前述のグローバル化の動きが鉄砲やキリスト教の伝来や南蛮貿易を日本にもたらし，それらを活用した織田・豊臣によって近世社会の基礎がつけられた。江戸時代はグローバル化のさなかで成立したのである。江戸幕府は，全国を支配するための幕藩体制や身分制度をつくるなど徹底した管理を行い，日本は統一・安定期を迎えた。しかし，幕府が直接支配する

のは幕府領のみで、あとは各藩独自の仕組みに任せていたため、幕府は単に強い政治権力や軍事権力を持つだけではなく、外交権や貿易権を統制下におく政策をとる必要があった。そうでなければ、強大な権力を保持することは難しかったのである。そこで幕府は、海外渡航の禁止や貿易船の制限などいわゆる鎖国政策を実施した。その背景には、キリスト教の禁止や大名の統制などの面があり、幕藩体制維持の妨げとなる要因の排除が目的であった。しかし、実際には四つの窓口が開かれており、幕府はその対外関係を利用して、貿易の利益や海外からの情報を独占したり、大名との主従関係を築いたりしていた。すなわち、幕府の対外政策には、「国を鎖す」ことで国内の支配体制を維持しようとした側面と「国を鎖さない」ことで国内の支配体制を維持しようとした側面の二つがあった。

このように、江戸時代の日本はグローバル化のただなかにながらも、自国への影響を考慮し、導入するものとしめないものを分別しながら対外関係を築き上げ、約 260 年も続く持続可能な社会を実現したといえる。江戸幕府のグローバル化への対応の仕方やその目的について考える本単元は、幕藩体制が築かれ安定した世の中が成立したという江戸時代の特色だけでなく、今後のグローバル化への対応のあり方について考えるきっかけとなりうる単元であると考えられる。

## (2) 生徒について

生徒は、小学校第 6 学年社会の江戸時代の学習において、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解している。小学校の学習では、世界の動きとの関連をあまり扱わないため、江戸時代がグローバル化のさなかで成立したという捉えをしている生徒は少ないと考える。そこで、前単元では、「ヨーロッパ人との出会いを経て、なぜ戦乱の世が終わりを迎えたのだろうか」という問いを立て、ヨーロッパ人来航の背景や影響、織田・豊臣による統一事業などを基に、近世社会の基礎がつけられたことを学習した。大航海時代の学習では、「コロンブスの交換」がヨーロッパやアメリカ大陸の相互に影響を与えたことに触れ、15 世紀末に世界では、グローバル化の動きが見られたことを確認した。単元のまとめやふり返りには、「織田・豊臣が活躍した戦乱時にはヨーロッパ人のもたらしたものを大いに利用し、近世社会の土台を作っていた」といった記述が多く見られ、近世社会がグローバル化の影響を受けて成立したことをおさえることができた。

また、小学校では鎖国について長崎・出島を中心に学習しており、他の窓口については深くは扱っていない。そのため、幕府はキリスト教の影響を受けないように「国を鎖す」ことで支配体制を維持しようとしていたと捉えている生徒が多いと考える。

## (3) 指導にあたって

本単元は、江戸時代の対外政策を通して、「統一・安定期を迎えた江戸幕府は、国内の安定を維持するために、海外から受け入れるものとそうでないものを取捨選択して、グローバル化に対応しようとした」という概念的知識をつかませることをねらいとしている。探究的な学習を進めるため「つかむ」「調べる・考える」「まとめる」「ふりかえる・いかす」の学習過程で以下のように展開する。

「つかむ」過程にあたる 1 時間目は、資料「キリスト教の禁止と貿易統制までの流れ」から気づいたことや疑問に思ったことをあげる。その際、前単元の学習を踏まえて、安土桃山時代から江戸時代にかけて次第にキリスト教への対応が厳しくなり、外国との貿易が制限されたことに気づかせ、なぜそのような変化が見られたのかという疑問から、単元を貫く問い「江戸幕府はグローバル化にどのように対応しよ

うとしたのだろうか」を設定する。

「調べる・考える」過程は2～5時間目が該当する。2時間目は、資料には表されていない17世紀の国内の状況について見ていく。ここでは、武家諸法度や参勤交代に関わる資料を提示し、その内容や目的について考えることで、幕府の徹底した管理のもと国内が統一され、安定期を迎えたことをおさえない。3時間目は、幕府が海外渡航を禁止したり、貿易船を制限したりした理由について考える時間である。ここでは、朱印船貿易開始からポルトガル船の来航禁止に至るまでに幕府の考えにどのような変化があったのかを捉えて、前時の学習をもとに、「国を鎖す」ことで国内の支配体制を維持しようとしていたことをおさえない。4時間目は、前時までの学習を踏まえて、国内への影響を考慮するならば、なぜ国を完全に鎖さなかったのかという問いを立て、貿易相手国の特徴やこれまでの日本との関係、貿易の交流の様子から幕府にとっての利点を考える。ここでは、主に幕府の直轄地であった長崎に注目できるようにする。本時にあたる5時間目は、幕府が長崎以外の三つの窓口を大名に任せていたことを確認し、その理由を考える。ここでは、幕府と大名との間の主従関係に着目して、「国を鎖さない」ことで国内の支配体制を維持しようとした幕府の対外政策のもう一つの側面をおさえない。

最後に、「まとめる」「ふりかえる・いかす」過程にあたる6時間目は、主に単元を貫く問いに対する答えをまとめる時間である。ふり返りシートを活用して、これまでの学習から、幕府のグローバル化への対応の仕方についてまとめるだけでなく、今後考えたいことや深めていきたいことを記述することで、現代社会の諸課題の1つであるグローバル化への対応のあり方について考えるきっかけとしたい。

## 5 指導と評価の計画

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

時	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法)
		知	思	態	
1	◇身近にある外国のモノや日本から世界に広まったモノをあげる。  ◇資料「キリスト教の禁止と貿易統制までの流れ」を見て、気づいたことや疑問に思ったことをあげる。			●	●現代の「グローバル化」に関心をもち、学習に取り組もうとしている。(取組の様子)  ●江戸幕府の対外政策に関心をもち、問いを見出そうとしている。(ワークシート)
	◇単元を貫く問いに対する現時点での自分の考えをまとめる。			●	●自分の考えをまとめたり、疑問をあげたりするなど、学習への見通しを立てている。(ふり返りシート)

単元を貫く問い：江戸幕府はグローバル化にどのように対応しようとしたのだろうか？

2	<p>17世紀前半の国内はどのような様子だったのだろうか？</p>			
	<p>◇家康から家光にかけて多くの大名が処分された理由について、武家諸法度や参勤交代、末期養子の禁止の目的をもとに考える。</p> <p>◇17世紀前半の国内がどのような様子だったのかをまとめる。</p>	●	●	<p>●諸政策や制度の目的に着目して、多くの大名が処分された理由を表現している。(ワークシート)</p> <p>●幕府の政策の影響に着目して、国内の様子を表現している。(ワークシート)</p>
3	<p>なぜ江戸幕府は国を鎖そうとしたのだろうか？</p>			
	<p>◇朱印船貿易から貿易統制に至るまでの流れを確認する。</p> <p>◇朱印船貿易開始からポルトガル船来航の禁止に至るまでに幕府の考えがどのように変化したのかを考える。</p>	●	●	<p>●貿易統制までの流れを理解している。(ワークシート)</p> <p>●キリスト教や貿易による影響に着目して、対外政策の目的を表現している。(ワークシート)</p>
4	<p>なぜ江戸幕府は完全に国を鎖さなかったのだろうか？</p>			
	<p>◇貿易相手国(オランダ・中国・朝鮮・琉球王国・蝦夷地)の特徴やこれまでの日本との関係、江戸時代における貿易や交流の様子を理解する。</p> <p>◇窓口を限定することで、幕府にとってどのような利点があったのかを考え、幕府が完全に国を鎖さなかった理由を考える。</p>	●	●	<p>●各窓口における相手国の特徴や日本との関係について理解している。(ワークシート)</p> <p>●幕府にとっての利点に着目して、完全に国を鎖さなかった理由を表現している。(ワークシート)</p>
5	<p>なぜ江戸幕府は長崎以外の窓口を大名に任せていたのだろうか？(本時)</p>			
本時	<p>◇四つの窓口を比較して気づいたことや疑問に思ったことをあげる。</p> <p>◇資料から幕府と大名の間にどのような関係があったかを読み取り、幕府が大名に任せていた理由を考える。</p>	●	●	<p>●既習内容をもとに、本時の学習の見通しをもととしている。(発言)</p> <p>●幕府と大名の関係に着目して、幕府が長崎以外の窓口を大名に任せていた理由を表現している。(ワークシート、発表内容)</p>

6	単元を貫く問い：江戸幕府はグローバル化にどのように対応しようとしたのだろうか？			
◇学習全体を振り返り、単元を貫く問いの答えや今後考えたいことや深めたいことをまとめる。	○	○ 対外政策の変化や国内への影響などに着目して、江戸幕府がグローバル化にどのように対応しようとしたのか、多面的・多角的に考察し、表現している。(ふり返しシート)	○	○ 江戸幕府のグローバル化への対応について、現代社会の課題の解決を視野に主体的に関わろうとしている。(ふり返しシート)

6 本時の学習指導

(1) 目標

幕府と大名の関係に着目して、幕府が長崎以外の窓口を大名に任せていた理由を説明できる。

(思考力・判断力・表現力等)

(2) 展開

学習活動と予想される子どもの反応	指導上の留意点
○四つの窓口を比較して気づいたことをあげる。 ・四つの窓口のうち、長崎以外は大名が貿易を担当している。 ・幕府が全て管理をすれば利益を独占できるのに、なぜ幕府は大名に任せたのだろうか。 ・なぜ信頼度の低い外様大名に任せたのだろうか。	・前時の学習内容から「貿易の利益を独占したければ全て幕府が管理すればいいのではないか」と問いかけ、本時の問いにつなげる。 ・いずれも外様大名だったことに触れ、生徒の「なぜ？」と考える意欲が高まるようにする。
本時の問い：なぜ江戸幕府は長崎以外の窓口を大名に任せていたのだろうか？	
○資料から、本時の問いの答えについて考える。(個人→グループ) ・三藩とも財政状況が良くなかったため、貿易を認めることで、幕府に従わせようとしたから。 ・貿易を認める代わりに、必要な物や情報を調達したり、相手国を押さえたりして幕府のために働かせようとしたから。 ・元々相手国と関わりのある藩だったので、外交や貿易を	・幕府と大名の関係性を考える次の展開につなげられるように、各グループの発表を聞きながら図で板書する。 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <pre> graph LR     A[幕府] --&gt; B[大名]     B --&gt; A           </pre> </div>

<p>認めることで、その関係を幕府のために利用しようとしたから。</p> <p>○各グループの発表から、幕府と大名の間にどのような関係があったのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに利益があるような関係。</li> <li>・鎌倉幕府の「御恩」と「奉公」のような主従関係。</li> </ul> <p>○ふり返りを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習前は、国を鎖すことで幕府の支配を安定させたと考えていたけど、今日の学習を受けて、国を鎖さないことでも支配を安定させていたことが分かりました。江戸幕府は、取り入れるものとそうでないものをうまく分けているのだと感じました。</li> </ul>	<p><b>【評価の観点】 思考・判断・表現</b></p> <p>幕府と大名の関係に着目して、幕府が長崎以外の窓口を大名に任せていた理由を説明できる。(ワークシート、発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ウィンウィンの関係」のような表現があった場合は、「幕府と大名の関係は対等だったか」と問い、幕府が対外関係を利用して主従関係を築こうしたことに気づくようにする。</li> <li>・幕府は「国を鎖さない」ことで国内の支配体制を維持しようとしていたことをおさえる</li> <li>・本時の学習をもとに、単元を貫く問いに対する予想の見直しや新たな気づきを記入する。</li> </ul>
--	--

### (3) 評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	努力を要する状況への手立て
概ね満足できる状況に加え、対外関係を国内の支配体制維持のために利用したと関連づけて説明している。	幕府と大名の関係に着目して、幕府が長崎以外の窓口を大名に任せていた理由を説明している。 (十分満足できると判断される状況にするための手立て) 「幕府が国を完全に鎖さなかったことでどのような利点があったか」と問い、対外関係を国内の支配体制維持のために利用したことに気づくようにする。	資料から、幕府は貿易を大名に認めることで、何を期待していたのかと問い、外交や貿易を通して、大名が幕府のために働いていたことに気づくようにする。